

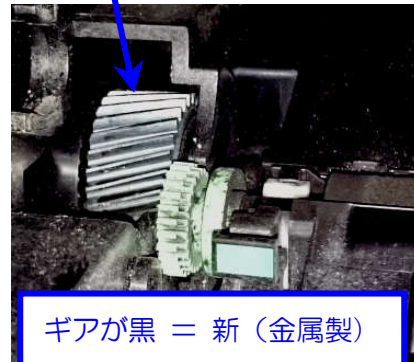
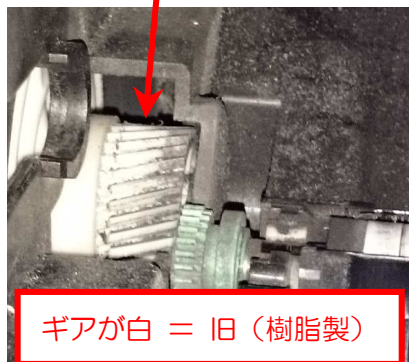
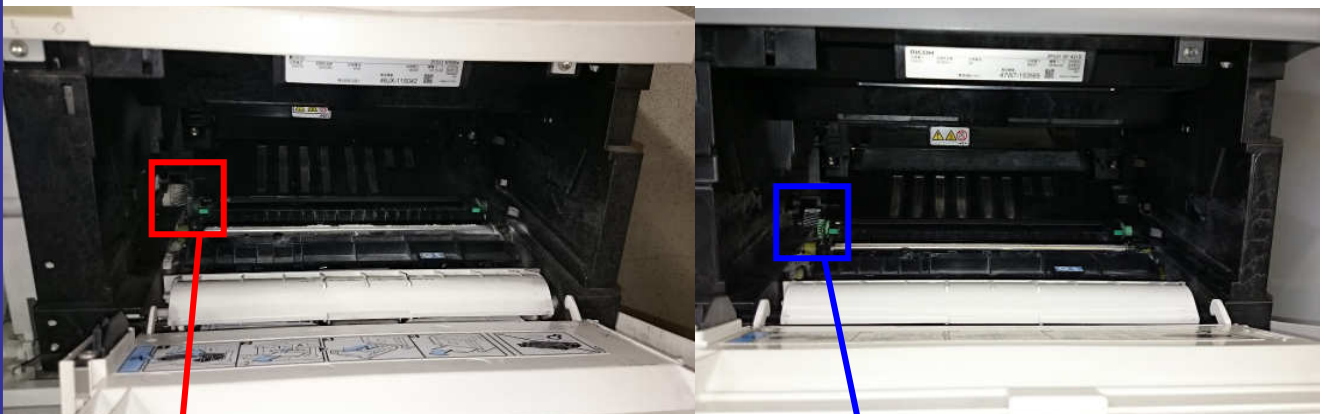
プリンタ 旧機体の駆動ギア劣化破損

この機種のプリンターの初期型はカートリッジのギアと噛み合う駆動ギアが樹脂製で耐久性が弱く、使用に伴いギアの山が割れて破損し易い仕様になっています。

- 特にプリンターの型式が『IPSiO NX 000』のように「NX」型番が付くタイプが該当。
- 実例でも社内プリンターで同様の障害が発生した際、メーカー訪問修理サービスマンもこの問題を認識してギアを交換。
- メーカー側での対策品として「駆動ギアを金属化されたプリンターがリリース」され、以降発売されたプリンターは全て駆動ギアは金属タイプに変更。

メーカーのサービスマンは、樹脂タイプのギアが搭載されているプリンターでギア破損の障害が発生した場合の対応として、駆動ギアを金属タイプのものに交換しています。

プリンター内左部のギアの色で旧タイプ(樹脂製ギア)か、新タイプ(金属製ギア)かが判別出来ます。



注意

旧機種の樹脂製ギアのままプリンターを使用し続け、プリンター側ギアが磨耗するとカートリッジ側に動力が十分伝わらず(噛み合わせが甘くなる)ギア滑りが発生して異音が発生します。また、プリンター側ギアの破片がカートリッジ側のドラムギアの谷に挟まり、カートリッジ側回転部品の回転がロックしてしまい、その状態でプリンター側ギアが作動し、プリンター側ギア全周の山が破損してしまう前例もありました。

最悪のケースの想定として、樹脂製ギアプリンターの使用を続けてギアが摩耗して全周の山が破損すると、お客様にカートリッジ起因によりプリンターが全損した印象・不安を持たれてしまう事が考えられます。

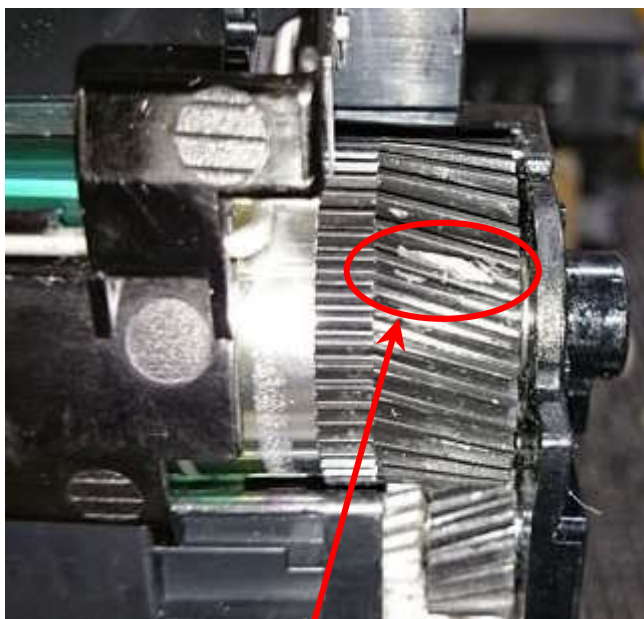
上記の旧機種にはこういった危険性がある事を予め認識をお願いします。

実際の事例

山が削れてしまったプリンター側駆動ギア



左画像のギアがついていたプリンターで稼働させたカートリッジ



ドラムギアの谷にプリンター側駆動ギアの破片が詰まって回転がロックしてしまっている



実事例でカートリッジのドラムギアから抽出されたプリンターギアの破片

→この破片を除去するとドラムは手動でもスムーズに回転してプリンターでの印字も良好

異音による異常が頻発してるお客様や、古くからタイプ720系/タイプ85系プリンターを使用しているお客様に、これからMC再生品（プレミアム品含む）の採用を検討して頂ける場合は、安心してご利用頂くために事前にプリンターの点検や予めの危険性の説明を推奨します。

実地のプリンター点検の際は前述のギアの種類と状態を確認の上、ご説明下さい。

経済産業省特定新規事業認定 56号



エム・シー通商株式会社